

TZ 〈ほんの窓〉

第 20 号 (2009.4.1) 一橋大学附属図書館高本善四郎氏助成図書コーナー「本の紹介」班

アカデミック・スキルズ — 学びの技法 —

大学での勉強は高校までの勉強とは違う、という話をよく聞くとお思います。違うのは分かるけど、どう違うの？どうしたらいいの？という方のために、大学での学びの技法 (academic skills) を紹介した本がたくさん出ています。アカデミック・スキルズは、論者によって若干バリエーションはありますが、大きく次の3つに分けられます。

- 1) 問う、思考すること、学ぶこと
- 2) 読む、調べるには
- 3) 発表するには

今回のTZでは、これらに応えるための本を紹介してゆきます。

■ 問う、思考すること、学ぶこと

『大学での学び方：思考のレッスン』 東谷護著、勁草書房、2007.4 【0020：108】

「大学では自らが問いをたて、思考することが重要です。高校までの知識を受容する学習姿勢と大学での学問への対し方の違いを明らかにします」(p.9)とあるとおり、「問う」「思考」のためにはどうすればよいか述べられます。

- 序 — 思考への誘い
- 第1章 思考の準備
- 第2章 「読む」ことから問う
- 第3章 「問う」ための工夫
- 第6章 「書く」ことは思考の具体化

『大学生の学び・入門：大学での勉強は役に立つ！』 溝上慎一著、有斐閣、2006.3 【3700：2692】

サブタイトルのとおり「大学での勉強は役に立つ！」がメインメッセージです。「認識編」と「行動編」に分かれていて、「行動編」では、「生活フォームをつくらう！」「本を読もう！」など勉強への取り組み方が解説されます。

□ その他の本

『大学で勉強する方法』 A・W・コーンハウザー著、玉川大学出版部、1995.9 【3700：3338】

『大学生学びのハンドブック』 世界思想社編集部編、世界思想社、2008.11 【3700：3353】

『スタディ・スキル入門：大学でしっかり学ぶために』 天野明弘・太田勲・野津隆志編、有斐閣、2008.5 【3700：3207】

このほかにも、基本的な「スタディ・スキル」や、大学生活の方法、これから本格的に研究をしてみたい人のための研究ハンドブックなどもあります。図書館本館3階【0200】あたりも眺めてみてください。

■ 読む、調べる

『本を読む本』 M.J.アドラー、C.V.ドーレン著 - 講談社、1997.10 【0800：24：1299】

読書法についての本としてはすでに古典といつてよいでしょう。ですが、大学に入って、大量の本を読まなければ短いレポートの一つも書けない、と気づいたなら必読書です。読書を初級読書、点検読書、分析読書、シントピカル読書(比較読書)の4つに分けて解説しています。

(裏面へ続く)

『考える力をつけるための「読む」技術：情報の解説と解釈』 妹尾堅一郎著、ダイヤモンド社、2002.6【0020：61】

「基本的リテラシーとしての「読み」」をビジネスマニュアル・ライクに解説した本。情報は調べられて、そこに書いてある「字」はもちろん読めても、そこに込められた「メッセージ」が読めるか、が問題になります。

1章「情報」を読む / 2章「図・表」を読む / 3章「統計」を読む / 4章「新聞」を読む / 5章「専門分野の本」を読む / 6章「百科事典」を読む / 7章「年表」を読む / 8章「ウェブサイト」を読む…

□その他の本

『読書と社会科学』 内田義彦著（岩波新書） - 岩波書店、1985.1【0300：33：黄288】

『キーワード検索がわかる』 藤田節子著（ちくま新書）、筑摩書房、2007.10【0070：1802】

『オンライン情報の学術利用：文献探索入門』 西岡達裕著、日本エディタースクール出版部、2008.5【0070：1856】

『情報検索入門ハンドブック：データベース、Web、図書館の利用法』 松本勝久著、勉誠出版、2008.9【0070：1868】

このほか、コンピュータの使い方や情報検索を中心として「情報リテラシー」に関する本は多数あります。図書館本館3階【0070】あたりも眺めてみてください。

■ 発表する

『アカデミック・スキルズ：大学生のための知的技法入門』 佐藤望編著、慶應義塾大学出版会、2006.10【0020：101】

慶應義塾大学での授業「アカデミック・スキルズ」を元に作られたテキスト。「アカデミック・スキルズ」とは・・・学問の目指すより幅広く深い教養を身につけるための基礎技術、「大学で学ぶための基礎的技法」である。「アカデミック・スキルズ」は、教養そのものではない。これから一生かけて築いていく幅広く深い教養を積み上げるための、基礎となるものである」としています。情報整理や、検索、アウトプットの技法がコンパクトにまとめられていて、読みやすいと思います。「書式の手引き（初級編）」が附録についているのも便利です。

第1章 アカデミック・スキルズとは

第2章 講義を聴いてノートを取る

第3章 図書館とデータベースの使い方

第4章 本を読む - クリティカル・リーディングの手法

第5章 情報整理

第6章 研究成果のアウトプット

『大学生のための「読む・書く・プレゼン・ディベート」の方法』 松本茂、河野哲也著、玉川大学出版部、2007.3【0020：116】

テキストの読解とレポート・論文の書き方が約半分ですが、もう半分のプレゼンと、ディベートの方法を解説した部分に特徴があります。単なるパワーポイントの使い方ではなく、アカデミックなプレゼンのための問題の構成法、グループプレゼンテーション、話し方などがコンパクトにまとめられています。

『これから研究を書くひとのためのガイドブック：ライティングの挑戦15週間』 佐渡島紗織、吉野亜矢子著、ひつじ書房、2008.5【8100：924】

早稲田大学でのアカデミック・ライティングの授業等を元に書かれたもの。「本書は、「学問すること」を「知識」と「方法」に分けたとすると、その「方法」に当たる部分に関わっています。すなわち、皆さんの、専門分野における「知識」がより深く、広く、価値の高いものとなっていくための「方法」を示そうというものです」とあります。レポート・論文の書き方に類する本は山ほどありますが、この本は、よくある文章読本風のものや<すぐ書けるレポート>風なものとは違い、実際に授業を前提に、しっかり組み立てられた丁寧な解説がなされています。

□ その他の本

『レポートの組み立て方』 木下是雄著（ちくま学芸文庫）、筑摩書房、1994.2【8100：903】

『論文の教室：レポートから卒論まで』 戸田山和久著、NHKブックス、2002.11【8100：537】

『学術論文のための著作権Q&A：著作権法に則った「論文作法」』 宮田昇著、東海大学出版会、【8100：917】

『よくわかる卒論の書き方』 白井利明・高橋一郎著 - ミネルヴァ書房、2008.5【8100：930】

『ざりざり合格への論文マニュアル』 山内志朗著（平凡社新書）、平凡社、2001.9【8100：532】

『これから学会発表する若者のために：ポスターと口頭のプレゼン技術』 酒井聡樹著、共立出版、2008.11【0020：137】

このほかにもレポート・論文の書き方はたくさんあります。図書館本館3階【8100】あたりを眺めてみてください。また、プレゼンの仕方、パワーポイントの使い方など個別のスキルについて書かれた本も多数あります